

1. 挨拶 司会浜（以下敬称略）より 全体の流れを説明 区民協働より説明、参加者自己紹介、質疑応答

2. 区民協働担当課長武田氏より挨拶

東京都から5年ぶりに区に戻り、今年度2年目になりました。本日、今岡部長は区議会の第2回定例会準備のため申し訳ありませんが欠席です。まず、振り返ると、3年以上の新型コロナウイルスの影響で、区民活動団体の事業継続が厳しい状況でありました。区民協働には、渡邊の協働ライン、深谷の生涯学習ラインの2つのラインがあるが、コロナ禍で思うように活動ができない、その影響で会員数の減少により社会教育関係団体の取り下げ申請があったりします。そのような状況の中でも、2月には区民活動フォーラムが開催できました。感染症対策を施しても約700名の参加がありました。出展団体からは「開催できたことが良かった。」と多くの声をいただき心強く想いました。活動再開の環境も徐々に整ってきています。我々、協働ラインでは今後3年間にわたり、個人と団体、団体と団体、企業と団体の関係性の働きかけ、地域の活性化をしかける魅力ある町づくりの事業を行って参ります。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。それぞれの事業の計画については、担当係長から説明いたします。

3. 地域力推進課区民協働担当係長渡邊氏より（協働ライン）

今年度2年目になります。担当は4名。事業に関しては、新規事業に取り組み、またこれまでの事業を見直していくことをテーマとしています。

①区民協働推進会議 平成17年から始まり任期は2年。令和5年が改選期。 区民協働推進会議を中心に、平成21年からの地域力応援基金助成事業（スターアップ助成、ステップアップ助成、チャレンジ助成、チャレンジプラス助成）この4つのメニューで今年度も実施。スタートアップ助成とステップアップ助成の面接審査が控えており採択団体が決まります。引き続き支援してまいります。

②NPO 区民活動フォーラム 今年度も開催の方向。さらに活気あるものにしていくしくみ、工夫ができればと考えています。

③災害ボランティア事業 社会福祉協議会と一般社団法人地域パートナーシップ支援センターと3者で協定を結び、災害時に災害ボランティアセンターを設置するという責務があります。そちらに向けて、~~ひび~~訓練、周知、活動しています。こちらも見直し、周知・認知に力をいれる大きな取組み、プロジェクトが進行しているところです。区報などで発信していければと思います。

④コーディネーター養成講座、団体自立支援講座 こちらも変わらず実施していくが、こちらも見直ししていきます。より実践的な内容になるように、詳細が決まりましたら広報していきます。

この1年自分なりに考え見えきて、協働としても掘り下げて、皆さんにより使い勝手のいい事業体系で、メリットを感じられる動きができたらいと思います。今日は皆さんにもご助言もいただきたいと思います。

4. 生涯学習担当社会教育主事 深谷氏より（生涯学習ライン）

長くこの仕事に就いております。個人としては専門職社会教育主事として、社会教育・生涯学習事業に携わっており、地域力推進課事業の中での生涯学習推進もありますが、職種としては広く社会教育全般に関わり、教育委員会で行っている社会教育事業や地域力推進課の青少年教育も社会教育事業であり、そちらもスタッフとして関わっています。区民活動されている皆さんとは地域のいろいろな所でお会いする機会があります。

生涯学習の計画「おおた生涯学習推進プラン」が昨年策定され、事業を推進し1年経ちました。今年度は新たな事業もありますし、これまで大事にしてきた学ぶこと、学ぶことが地域活動につながり、それが地域づくりにつながる、それを目指した生涯学習の計画が新たに立ちましたので、そこに則って事業を進めていきます。

①社会教育の講座関係 これまでのおおた区民大学を筆頭に、地域の課題を捉えたり、現代的な課題を捉える少しアカデミックな内容であったり、生涯学習の入門的な講座、識字学習のまなびバ（学び直し、読み書きそろばんを学ぶ平成9年から実施）、1人1人が学ぶ講座、学んだことを地域に活かす人材育成に関わる講座も実施。ICTのリテラシーに関する事業も昨年から実施している。スマホの初歩的な活用から、ICTの情報格差もあり、ICTを活用した地域活動、学習は皆さんに共通になってきたので重点的な課題としている。

②社会教育関係団体登録制度 今年は更新年で、各団体にお知らせを送り、10月までなので更新準備をお願いします。書式はHPでダウンロードできます。次の活動を続けて繋げてほしい。

③ウェブサイト おおたまなびの森 <https://otamanabi-no-mori.city.ota.tokyo.jp>

生涯学習事業をもう少し地域に展開していくところに力を入れています。生涯学習を認識してもらい、誰でも身近なところで参加できるよう、裾野をひろげ区民活動を活性化するために、今年1月に「おおたまなびの森」ウェブサイト立ち上げました。生涯学習の情報が満載、情報をまとめ、ダイレクトに講座の申込みなども可能。使いやすいサイトを目指しており、これが新規の事業です。時々見ていただければと思います。紙面での生涯学習の情報も継続します。

④地域に生涯学習を広げていくために、区内11文化センターで講座を実施していく。生涯学習に関する施設の在り方を検討していく時期であり、地域の人に使ってもらえる、事業を展開する。生涯学習の職員が地域に出て行き、地域課題を掘り下げ、学びの場とする。地域のキーパーソンと出会うことで、職員もスキルアップする。これまでの事業を重点的に入れていく。

⑤直接、生涯学習の事業ではないが、学校を核とした町づくりは、大田区でもコミュニティスクールという動きがあり、社会教育の施設である学校を地域で活用していく。広域的な動きではあるが、皆さんにもお力をいただきたいです。

その他、生涯学習は着実に行っており、つながり、交流に力をいれていく、そんな一年を目指しています。

5. 団体紹介

①NPO 法人男女共同参画おおた 青木 事業は、エセナおおた指定管理を今年で20年、東京都の事業のパシオン TOKYO は7年目、足立区の男女共同参画事業を委託され3年目、新宿区・中央区の委託されて事業を行っている。

②NPO 法人読み聞かせネットワークヒッポ 近藤 大田区で長く子どもの読書支援活動を行っている。最近では昨年12月に子ども文庫を開設しました。地域の多くの親子さんに活用いただいています。

③NPO 法人読み聞かせネットワークヒッポ 井手 配布したチラシの写真をご覧いただくと雰囲気がおわかりになると思います。読み聞かせを中心に、紙芝居・人形劇などいろいろな活動を行っています。

④NEXPO ふれあいネットワーク 柳谷 うち個人ではなく、団体の代表が集まっている団体で、それぞれの団体のイベントに手伝いに行ったりしています。最近では4日（日）ユニバーサル駅伝のお手伝いをしました。

- 元々は福祉の問題や勉強会のネットワークを作ったので、今年度は活動をさらに展開していきたいと思います。
- ⑤大田 NPO 活動団体交流会 矢嶋 非営利団体の活動は、今の社会の困りごと、どんなニーズがあるかを感じ取ることが大事と思っています。コロナの3年間は話し合いにしても、慎重に行っていたが、3年出ていかないと高齢者の方は出ていく気力を無くしてしまう。これからは今の社会に応じたことを開拓していくべきと思っています。区は区民団体を育てることが大事と思って話し合っていたらいいと思っています。
- ⑥山王1・2丁目自治会 早川 毎月、消防訓練・音楽会など様々は行事を行っているが、ここにいらっしゃるメンバーの方々と横のつながりを密にして、いろいろ教えていただきたいと思っています。自治会の運営していく上で困ったことがあるが、どちらに相談したらいいかわからないので、皆さんにおしえていただきたいと思っています。
- ⑦山王1・2丁目自治会 上田 初めて参加しました。学校を核とした町づくりは、経費を抑えたボランティア団体にはありがたい。高齢者センターを使っていたが、飲食ができなかったり、今後、高齢者の出る機会を作っていきたいと思う。地縁活動として活動しているが、学校が使いにくくなったのでどこに相談したらいいかわからない。地域を活性化することが災害に強い町づくりなるという意識で頑張っています。
- ⑧おおた区民活動団体連絡会賛助会員 庄嶋 NPO 法人おおた市民活動推進機構の副代表、大田区議会議員でもあります。
- ⑨サードエイジサロン 松野 子育て支援を中心に、キッズナ・男女共同参画おおた等々と連携してボランティア活動を幅広く行っている団体です。最近が高齢者、特に男性が出てくる場所がないということで、シニアのおしゃべりサロンサーベリースロンという広場を運営している。男女共同参画おおたの中央区・新宿区の事業、シニアのいきがい塾の講座をお手伝いしています。
- ⑩おおた生涯学習世話人会 藤井 おおた生涯学習リーダー養成講座修了生で2013年発足し、10年目、2年前に代表になりました。区と協働事業、区の助成事業を経て、今は区内18特別出張所を回る、おしゃべり講座を自主開催している。好評を得ているので、継続、また助成事業を検討しています。
- ⑪サードエイジサロン おおた生涯学習世話人会 中西 おおた区民活動団体連絡会共同代表でもあります。組織のリーダーは若い皆さんにお願いしました。大田区は、老い支度を一生懸命にPRしているが、老い支度をやる前に、もうひとつ、なにかやることがあるのではないかと、老い支度の前に「地域社会に再就職」まちづくりに手を貸していただきたいと思っています。
- ⑫NPO 法人大田区介護支援専門員連絡会 浜 ケアマネジャーでもあります。なかでも主任介護専門員は、地域作りが課題でもあります。介護支援専門員連絡会は、蒲田駅前図書館とこらぼして、毎月、無料区民相談を行っており、介護保険や家族のことで相談をうけています。また、パートナーシップ支援センターと防災観点的な講座を企画も行っています。今後は利用者さんだけでなく地域の受け皿として、展開していきます。

6. 質疑応答

①区民協働に関して（今年度の活動計画について、区民活動コーディネーター

養成講座について、助成金制度について） **質問：**藤井 今年の活動計画と予算について伺いたい。

回答：渡邊係長 事業数が多いので、どのように区民を巻き込んで実施するのかというところで説明します。新規事業として地域コミュニティの新たな担い手を探していく事業実施を考えています。たとえば自治会、町会を中心とした地域コミュニティに新しい人をどう巻き込むか、あらたな取組みを作っていけないか探っていく意見交換の場を設定します。予算はHPでも公表されていますが、昨年度と大きく変わらないです。成果は見えづらく、見直すという点では限られた予算の中で工夫していき、活性化していることを外から見えやすくする取組みをしていきます。また発信することで予算がつくよう発展していけたらと思います。

質問：藤井 区民活動コーディネーター養成講座を実施しているが、受講者をうまく活用できているか、育成計

画はどのように考えられているか。

回答：渡邊係長 内部でも養成講座のその先の流れがうまく作れていない実感があり、見直すという点でもあります。案としては、地域活動の敷居を低くして間口を広げる形で、修了者を交流でつなげていき、地域活動の神髄を知ってもらい、さらに実践というところで、講座で培った知識を実践的な現場と結びつけていく、そういった流れを整理して発展させていく。その先にコーディネーターと呼ばれる素養を持った人を発掘していけたらと考えています。

質問：藤井 助成金制度について、たとえばチャレンジプラスはどのような項目になるか。

回答：渡邊係長 まだ決まっていません。

質問：藤井 申請しやすい制度にしていきたいです。

②生涯学習について（おおた生涯学習推進プランと予算について。カムカム新蒲田について。生涯学習相談員養成講座修了生の育成計画について）

質問：藤井 生涯学習推進プランのその後の動きと令和5年度予算がみえないので、お聞きしたい。

回答：深谷係長 キーワードは学び、つながり、地域力ではばたくまち。行政だけが進めていく施策でなく、区民と進めていくプランです。また社会教育の歴史に積み重ねています。より区民が主体になる生涯学習社会になることを目標に、具体的に行政は何ができるか示しています。予算ですが、重点的に何に力を入れているかということで、これまでやってきた講座、団体支援、相談業務、ICT リテラシーの向上は新規事業でリテラシーを高めるところに700万つけています。ウェブサイト「おおたまなびの森」には300万。1月開始で5月は18000件アクセスあり。生涯学習社会の実現につながったらいい。推進委員会を立ち上げ、会議で具体的な話を進めます。会議はこれからスタートします。

質問：藤井 品川区は予算が多く、大田区ももう少し予算をつけていただきたい。

回答：深谷係長 品川は委託事業で大田区は直営で、予算の使い方が違う。

質問：藤井 カムカム新蒲田について、使い勝手が良くない。

質問：中西 もう少し設計の段階から区民に公開してほしい。官と民の役割分担が難しいが、これから学習して良い方向に進めていただきたい。区も予算が厳しいので、PPP方式でやらないといけませんが、区民が使って、良かったと思うようお願いしたい。また、開業して何か月も経過していないのに、雨漏り修理や防音工事の改修、ホールの音響装置のトラブル等雑な工事が目立つ。ふれこみでは「生涯学習スペースも充実します」でしたが1階に丸テーブルとイス4脚です。生涯学習センターについて、大田区は70万都市です、生涯学習蒲田ではお粗末です。生涯学習センターの建設は大田区の最高の基本計画に前期・後期と10年掲載して気のですよ。このままで終わるわけにはいかないと思う。

回答：武田課長 生涯学習センターについては、昨年3月にプラン作成し、一つずつ具現化しています。会議体を設けプランの推進に向けて、施設の活用も考えています。学びを通じて地域力を向上させるには、地域の学びの拠点がどうあるべきか考える必要があります。会議体で議論していきたい。大田区は広く1箇所に機能集中するとアクセスしづらくなるので、既存の施設を活用し地域の生涯学習を推進する拠点として文化センターの活用を検討していく必要があると思います。今年から、社会教育指導員のうち3名は各文化センターに行き、地域とつながりを作る事業展開を志向していく。文化センターを多くの人に知ってもらう事業を展開していけると思います。臨んでいる答えと違うかも知れませんがよろしいでしょうか。

意見 中西 課長の言われる大田区は広い1か所に箱モノをたくっても利用しない、よって各地域に核となる施設を整備して生涯学習社会を建設していく計画で。①萩中集会所、②六郷地域力推進センター、③嶺町集会所、蒲田地区に中心的な生涯学習センターを建設する計画であると責任ある方から聞いていた。そこで大田生涯学習世話人会はその大田区の生涯学習推進計画に沿って①・②・③の施設を回って、地域の届ける、出前「地域おし

ゃべり講座」を助成金で実施してきました。最後のまとめが未完なのは残念です。

③質問：柳谷 おおたまなびの森は区報に出てましたか？

回答：深谷係長 試行は1月からで、区報にも出てます。生涯学習の記事にも掲載されています。HPのバナーにもあります。

回答：渡邊係長 オーちゃんネットは12/8にリニューアルし、アクセス数も伸びています。

④質問：浜

1.フォーラムと基金が新しい団体の入り口になっているので、参加された団体にはおおた区民活動団体連絡会にお声かけさせていただいている。フォーラムは開催できて良かったので、今後もよろしくお願いします。

2.公民連携デスクが設置されたが、民は大手企業のことであった。ぜひ区民活動団体とも連携できたらと思う。

3.地域福祉計画推進会議に区民団体の代表として委員をしています。重層的支援体制が課題となっており社協がいろいろと展開しているが、区民協働こそぜひ一緒に展開して欲しい。

4.水害が多いが、今、地域の避難訓練に災害ボランティアを派遣することは行われていない。災害対策は地域の課題なので、社協とパートナーシップと区民協働と一緒に地域をボランティアを派遣できる形を日常的に取っていただくことが必要と思うのでお願いしたい。

5.町会が高齢化しており、動いていない。区民活動団体、社協に登録したボランティアは町会と繋がっていないので、有機的につながることが地域力を盛り上げると思うので、コーディネーターの展開も場面を作るとあったので、お手伝いしますのでよろしくお願いします。

回答：武田課長

共感するところが多く、ありがとうございました。

1.助成金事業についてですが、地域の課題がなにか把握することは大切だがなかなか見えてこない。行政と地域団体との協働が大切であり、助成金事業などを通じて協働できればいいと思う。

2.災害ボランティアについては、事業を再構築したいと考えている。災害ボランティアの中で取組は3つある。1つは人材育成、2つは災害ボランティア制度を知ってもらう、3つめは訓練で災害ボランティアセンターを機能させるようにしていきたい。目的と対象をはっきりさせて再構築していきます。

3.自治会・町会役員の高齢化が進むことで、安定的な地域活動の継続が停滞してしまう可能性があり、地域コミュニティの担い手の発掘が課題。どうしたら活動に入りやすくなるか等課題を把握し、ハードルを下げるためにどうしたらいいか事業を考えています。災害ボランティア事業にしても、担い手の発掘にしても、助成金事業にしても、浜さんの思いと我々と同じ思いであると思うのでご協力をお願いいたします。

⑤質問：早川、上田 これまで小学校を使用してきたが、教育委員会から学校が使用できないと聞き困っておりどうしたらいいか。

回答：深谷係長 基本的には教育施設ですが地域に開放はしている。地域の実情、町会の実情などあると思うので個別で対応したいと思います。

会場よりコロナの影響があること、憶測でなく率直に相手先に質問してみてはどうかの意見あり。

⑥質問：青木 災害ボランティアの再構築について、行政と区民とプロジェクトチームができないかと思う。ジェンダーの視点で、連携の積み重ねで女性のワーキングチームを作った経験がある。女性の困りごとが起こりうるので、行政と区民と一緒にできたらもっといいものができるのではないかな。

回答：渡邊係長 矢口地区では訓練と講座を実施しました。災害ボランティアセンターの本部は社協、状況により避難所等にサテライトが作られ、ニーズを把握し災害ボランティアが派遣される。青木様のお考えは同意することが多く重要でありヒントになる。区民が一番知りたいことは、困った時にどうしたらいいか。平時の時から知っていく、知識も伝えていく、きめ細かく周知していくことが大事だと思う。

武田課長 補足します。1 つめは貴重なノウハウをお持ちなので、避難所運営に役立てるよう関係部署に繋げるなり考えさせてください。2 つめは災害ボランティアについて、災害ボランティアは避難所を運営しません。ボランティア登録された人が、被災された方のお宅に行き活動するのが災害ボランティアです。周知されていないことは感じており、災害ボランティアの周知、訓練をしっかりとやっていきたい、リーダーやボランティア登録者数を増やすこともやっていきたい。

意見 青木 周知する手立てとして、NPO で作成した避難所ゲームがあります。青梅市の防災課では訓練でも使っています。市民レベルでやっていますので、よろしくお願いします。

7. 閉会 司会 浜 時間になりました。また 1 年に 1 度ですが、お互いに遠慮無く協働できると思いますのでよろしくお願いします。

武田 地域の困りごとには拾っていかなくてはいけないと思っています。専門的な知識をお持ちの皆さんと協働していかになくてはいけないと思っています。1 年に 1 度でなく、困った時は協働担当に行ってみようとなるといいなと、井戸端会議ができたらと思います。

浜 本日はありがとうございました。